

令和元年中の火災・救急件数について（速報値）

1 火災の状況

(1) 火災件数 ※本文中、表中の数値は小数点第2位を四捨五入。▲は減を示す。以下同じ。

種別	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
元年	104	56	0	11	0	0	37
30年	112	66	4	12	0	0	30
前年比	▲8 (▲7.1%)	▲10 (▲15.2%)	▲4 (皆減)	▲1 (▲8.3%)	-	-	7 (23.3%)

- 令和元年中の火災件数は104件で、前年に比べ8件減少しました。火災種別では建物火災が10件、林野火災が4件、車両火災が1件減少し、その他の火災が7件増加しました。
- その他の火災は、1月から3月の不審火などによる影響で増加しました。

(2) 住宅火災

焼損程度	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや
元年	28	1	4	9	14
30年	36	7	0	13	16
前年比	▲8 (▲22.2%)	▲6 (▲85.7%)	4 (皆増)	▲4 (▲30.8%)	▲2 (▲12.5%)

- 建物火災56件のうち住宅火災は28件で、焼損の程度は全焼が1件、半焼が4件、部分焼が9件、ぼやが14件となっています。

(3) 死者・負傷者数及び損害額等

*元年の値は暫定値です。

区分	死者(人)	負傷者(人)	損害額(千円)	焼損面積	
				建物(m ²)	林野(a)
元年	2	3	92,484	1,750	0
30年	6	9	202,947	1,722	7
前年比	▲4 (▲66.7%)	▲6 (▲66.7%)	▲110,463 (▲54.4%)	28 (1.6%)	▲7 (皆減)

- 令和元年中の死者・負傷者数は前年に比べて、死者が4人、負傷者が6人減少しました。
- 損害額は昨年に比べ大きく減少し、これは建物火災が減少したことによります。

(4) 主な出火原因

原因別	放火 (疑いを含む)	たき火	こんろ	たばこ	火遊び	ストーブ
元年	26	3	5	7	6	1
30年	13	5	6	10	1	1
前年比	13 (100%)	▲2 (▲40%)	▲1 (▲16.7%)	▲3 (▲30%)	5 (6倍)	0 (0)

- 令和元年中の出火原因では「放火(放火の疑いを含む)」が26件、過去10年で最も少ない前年から13件増加しており、昭和61年以降連続して第1位となっています。

2 救急の状況

(1) 出動件数

種別 年別	計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害
元年	15,941	47	1	6	1,213	145
30年	15,919	54	4	6	1,272	160
前年比	22 (0.1%)	▲7 (▲13%)	▲3 (▲75%)	—	▲59 (▲4.6%)	▲15 (▲9.4%)

運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
104	1,923	45	126	10,507	1,824
118	1,932	55	145	10,431	1,742
▲14 (▲11.9%)	▲9 (▲0.5%)	▲10 (▲18.2%)	▲19 (▲13.1%)	76 (0.7%)	82 (4.7%)

- 令和元年中の救急出動件数は15,941件で、前年に比べ22件増加し過去最多となりました。1日あたりおよそ44件、33分に1回の割合で出動したことになります。
- 種別では、急病が全体の65.9%と高い割合を占めています。

(2) 搬送人員

年齢区分 年別	計 (年齢)	新生児 (0~28日)	乳幼児 (29日~6歳)	少年 (7歳~17歳)	成人 (18歳~64歳)	高齢者 (65歳~)
元年	13,851	139 (1.0%)	575 (4.2%)	481 (3.5%)	4,432 (32.0%)	8,224 (59.4%)
30年	13,808	154 (1.1%)	562 (4.1%)	615 (4.5%)	4,413 (32.0%)	8,064 (58.4%)
前年比	43 (0.3%)	▲15 (▲9.7%)	13 (2.3%)	▲134 (▲21.8%)	19 (0.4%)	160 (2.0%)

(3) 搬送人員における高齢者の割合

	令和元年			平成30年		
	搬送人員	うち高齢者	高齢者比率	搬送人員	うち高齢者	高齢者比率
急病	9,384	5,889	62.8%	9,268	5,757	62.1%
一般負傷	1,689	1,252	74.1%	1,730	1,256	72.6%
交通事故	1,073	290	27.0%	1,173	323	27.6%
その他	1,705	793	46.5%	1,638	728	44.4%
計	13,851	8,224	59.4%	13,808	8,064	58.4%

- 搬送人員は、13,851人と前年に比べ43人増加し、出動件数同様に過去最多の人数となりました。
- 年齢別搬送では、高齢者が8,224人と全体の59.4%を占め、1.0ポイント増加しています。
- 急病、一般負傷（転倒負傷など）の搬送者のうち、高齢者はそれぞれ62.8%、74.1%と極めて高くなっています。

【問合先】 消防救急課 課長補佐 村田（電話 51-3101）